

公園内で見られる植物

写真は6月3日(土)
自然観察会で見られた
植物です



ヤマボウシ (ミズキ科)

名前の由来は中央の丸い花穂を坊主頭に、4枚の総苞片(白い花びらのように見える)を白い頭巾に見立てて比叡山延暦寺の山法師になぞらえたものなのだが、今の小学生に山法師の話をしてもピンとこないようで、とても目立つ6月の白い花なので、紹介するのに工夫が必要ですね。



ツルアリドオシ (アカネ科)

名前の由来は、アリドオシに似ているからだが、アリをもつらぬくような細い刺がこのツルアリドオシには無い。花の時期は見落とすことが多いのだが、実の付く時期には二つの花が着合して1個の赤い実になる。実には二つの花の跡が残るので見つけやすい。



イソノキ (クロウメモドキ科)

和名の由来は、稲を束ねるワラの事を「ユイソ (結いそ)」と呼びます。枝がしなやかなので結束に使用したそうで、そこからユを省略してイソノキとなったとか？花は非常に地味ですね。花が開いているのかつぼみなのかわかりにくいですね。



ガクアジサイ (アジサイ科)

中央の一塊になった珊瑚状の紫色のものが花で、周りの小花のように見えるのが飾り花と言って、実は萼片です。この構造から額アジサイとよばれます。6月（梅雨の時期）の花の代表ですね。



ナツハゼ (ツツジ科)

秋には黒く熟して、山のブルーベリーと言われるくらいに実は美味しいです。葉に荒い毛があるので、触るとざらつくので、実の無い時には区別するのに有効です。夏の頃からハゼのように紅葉するという意味でこの名が付いていますが、日陰に生育しているものは夏に紅葉しないそうです。



ウツギ (ユキノシタ科)

ウツギ (空木) の名は枝がすぐに中空になることから付けられました。別名ウノハナ。旧暦の4月の卯月に咲く事からこの別名が付いたそうです。ほととぎすと一緒に童謡に歌われたほど以前は身近な樹木でしたが、今はあまり見かけません。純白の白い色は目にしみますね。



ソヨゴ (モチノキ科)

そよそよと波状の葉が風にゆれて涼しげな音がすることからソヨゴの名が付いたと言われています。葉を熱すると膨れてパチンと音を立ててはじけるので、岡山県では「ふくらし」とか「ふくらしば」と呼ばれているそうです



スイカズラ (スイカズラ科)

ツルは右巻きです。とっても甘い香りがします。秋から冬にかけて葉の付いたまま茎を取って、刻み天日で乾燥させ、生薬として用いるそうです。ちなみにお茶にして飲むと香りがよく美味しいですよ。冬でも葉が落ちない事から、忍冬 (ニンドウ) の名があります。花は最初白く、次第に黄色くなります。



シラカシについたムシコブ (ブナ科)

気持ちの悪い虫コブの正体は、シラカシハクボミフシという、シラカシトガリキジラミによって作られます。幼虫はこの中で2齢、越冬します。幼虫は毛じらみに良く似ていて、成虫はハエみたい。シラカシは貸すから商売繁盛で縁起樹として植えるとか？虫は付いてほしくないですね。



コモチマンネングサ (ベンケイソウ科)

万年草と名が付いていますが秋に芽生え初夏に開花して終わる越年草です。多肉植物なので、根は貧弱で抜きやすいのですが、無性芽（ムカゴ）を形成して繁殖力が強く、厄介な雑草です。



ドクダミ (ドクダミ科?)

独特の匂いが嫌いな人も多いと思います。毒や痛みによく効くことから「毒痛み」が転じてドクダミとなったとか? 民間薬の代表です。10種の薬効があると言われます。